

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人のらんど

事業名	みんなの見沼田んぼ活用事業
枠の種類	ネーミング事業
分野	キリンビール（株）埼玉支社 地産地消・食育応援事業
①事業の目的・この事業で取り組んだ課題	<p>【目的】</p> <p>有休農地の増えている見沼田んぼに、障害福祉、貧困、見沼田んぼ保全関連団体等が協力して、さまざまな違いを持つ人呼び込み、田畑を活用し、米や野菜を栽培。さまざまな参加者が見沼田んぼで農的活動を楽しみとともに働き、見沼田んぼの環境やそこで自ら作った作物のありがたみを知る。継続して参加してもらい、様々な人に見沼で活躍する人となってもらう。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見沼田んぼの有休農地の有効活用。農家だけではなく、NPOスタッフも高齢化。管理しきれない土地が増えている。畑は一度放棄されてしまって何年か作物を栽培しないと、畑として再度使うまでに除草、耕起、土づくりとかなりの時間がかかる。今耕作されている土地も近いうちに耕作放棄されそうな場所も多い。これを田畑として維持する必要がある。このためには、単発のイベントではなく、恒常的な耕作・管理作業が不可欠。見沼の田畑はまとまった大きさのところが少なく、少しずつ空いた土地を使っでの生産販売だと利益を得ることは難しい。このため、見沼の土地を田畑としてどう維持していくかは地域の大きな課題。 ・食と農に対する関心はどのような分野に従事する人、どんな立場の人にも共通する。いろいろな活動や支援に関わる人がともに同じ田畑を耕すことで、分野や支援対象にとられない地域交流の場を作る。 ・障害や貧困など、これまで支援される対象とされてきた人が、何かをしてもらう人としてではなく、見沼を保全する一員として活躍してもらう。
②課題を解決するため、取り組んだ個々の事業	<p>現在、NPO法人のらんどとして活動している見沼田んぼ福祉農園や、周辺の遊休農地を活用し以下の事業を展開。</p> <p>（１）米づくりと里芋づくりの作業日開催</p> <p>①趣旨：NPO法人見沼保全じゃぶじゃぶラボに技術指導を受けながら、一般個人や異業種NPO団体のメンバーとともに、米と里芋</p>

	<p>を生産。見沼田んぼという名の土地ながら6%程度になってしまった田んぼの保全。見沼田んぼの土地によく合った里芋の生産で無理なく畑を活用。参加者が見沼の土地の特性を知り、いろいろな人がともに同じ田畑を耕すことで交流。会員や近隣農家、NPO関係者との交流・意見交換。</p> <p>②時期：6月から11月 月1回</p> <p>③対象者：一般個人、各種NPO法人関係者、のらんど会員</p> <p>④場所：見沼田んぼ福祉農園と周辺農地</p> <p>⑤参加人数：(12~44名/回)</p> <p>⑥協力者・団体：NPO法人見沼保全じゃぶじゃぶラボ</p> <p>(2) 田畑の管理</p> <p>①趣旨：作業日だけではやりきれない作業、日常的な除草や作物の見守り、天候に合わせた作物の生長管理。</p> <p>②時期：6月~2020年2月 週2から5日(田畑の状況による)。</p> <p>③場所：見沼田んぼ福祉農園、周辺農地</p> <p>(3) 収穫を祝う会の開催</p> <p>①趣旨：作業に関わった参加者が集まり、収穫を共に祝う。収穫物を見沼田んぼでいっしょに食べることで、自分たちで作ったもののありがたみや環境のすばらしさを確認する。参加者の見沼田んぼに対する理解度の確認と、満足度と次年度に向けた希望を問うアンケートを行う。</p> <p>②時期：11月</p> <p>③場所：見沼田んぼ福祉農園、周辺農地</p> <p>④参加人数：110名</p>
<p>③個々の事業の内容・実施結果</p>	<p>(1) 米づくりと里芋づくりの作業日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/1 田植え、草取り 44人 ・7/6 草取り、芋類植えつけ 24人 ・8/3 防鳥ネット張り、芋土寄せ 12人 ・9/7 オダ作り、大根種まき 27人 ・10/14 稲刈り 22人 <p>(11/2 脱穀 3名 ※作業日として設定していなかったが、必要な作業なので、急きょ集まれる人で実施。)</p> <p>(2) 田畑の管理</p> <p>① 日常管理：5月から2月。月2日から12日。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除草、耕うん、畝づくり、土寄せ、マルチ張り、間引き、防虫ネ

	<p>ット張り、収穫後片づけ、緑肥播種、肥料入れなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動支援センター農とほっとプラスの利用者が作業に参加。 ・地域活動支援センター農利用者（6月3回、7月3回、8月1回、のべ7名） ・ほっとプラス利用者、職員（10月9日、11月6日、のべ5名） <p>② 見回り：週2から5日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物の生育、雑草の様子、ネットやマルチの乱れ、雨や台風後の様子などのチェック <p>（3）収穫を祝う会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/9 じゃぶじゃぶラボと共同で開催。参加者110名以上。 ・収穫した作物を参加者で調理、試食。 ・見沼田んぼテストやアンケートを実施。 <p>実施のスケジュール</p> <table border="1" data-bbox="507 902 1361 1395"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月</td> <td>田畑管理（草取り、田植え）／関連団体と打合</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>田畑管理（草取り、芋類植付）</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>田畑管理（防鳥ネット張り、大根種まき）</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>田畑管理（オダつくり、草取り）</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>米収穫、米乾燥・粳摺り、田畑管理</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>里芋掘り・収穫を祝う会</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>田畑土づくり／翌年度計画・スケジュール作成</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>田畑土づくり／翌年度準備・打合</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>田畑土づくり／翌年度準備</td> </tr> </tbody> </table> <p>○広報実績について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① チラシ：毎月200部。近隣児童センター、会員、他イベント参加者、関連団体等。 ② 法人会報誌：毎月200部。会員、会報誌会員、関連団体。 ③ メール：法人メール会員、他イベント参加者等。 ④ 法人WEBサイト、Facebook ⑤ 事業専用WEBサイト ⑥ 事業専用ツイッター 	時期		6月	田畑管理（草取り、田植え）／関連団体と打合	7月	田畑管理（草取り、芋類植付）	8月	田畑管理（防鳥ネット張り、大根種まき）	9月	田畑管理（オダつくり、草取り）	10月	米収穫、米乾燥・粳摺り、田畑管理	11月	里芋掘り・収穫を祝う会	12月	田畑土づくり／翌年度計画・スケジュール作成	1月	田畑土づくり／翌年度準備・打合	2月	田畑土づくり／翌年度準備
時期																					
6月	田畑管理（草取り、田植え）／関連団体と打合																				
7月	田畑管理（草取り、芋類植付）																				
8月	田畑管理（防鳥ネット張り、大根種まき）																				
9月	田畑管理（オダつくり、草取り）																				
10月	米収穫、米乾燥・粳摺り、田畑管理																				
11月	里芋掘り・収穫を祝う会																				
12月	田畑土づくり／翌年度計画・スケジュール作成																				
1月	田畑土づくり／翌年度準備・打合																				
2月	田畑土づくり／翌年度準備																				
④個々の事業の実施により達成した成果の具体的な内容	<p>（1）米づくりと里芋づくりの作業日開催</p> <ol style="list-style-type: none"> ①参加人数：各回10名のべ180名（大人100名・子ども80名） ②参加団体：3団体 ③耕作面積：田1枚500㎡、畑50㎡ 																				

	<p>④収穫量：米 25kg、里芋 20kg、サツマイモ 10kg、大根 130 本</p> <p>(2) 田畑の管理</p> <p>(1)の③の面積を耕作し、④の収穫量が確保できたこと。</p> <p>(3) 収穫を祝う会の開催</p> <p>①参加人数：30 名（大人 17 人、子ども 13 人）</p> <p>②参加団体：3 団体</p> <p>③米づくり、里芋づくりの集大成として、収穫した米や里芋を、作業に参加した人たちが一緒に食べる。</p> <p>④見沼田んぼテスト（5 問程度の簡単な口頭質問）で参加者の見沼田んぼへの理解度 80%。</p> <p>⑤アンケートで次年度の参加希望者（団体）が参加者のうち 30%。</p> <p>(4) その他の成果</p> <p>①地域とのつながり作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貧困支援や DV 被害支援、障害福祉団体などとのつながり作り。 ・ 見沼田んぼ保全団体や農家の会合に参加。 ・ 地域農家とのつながり作り。 <p>②作業日、田畑の管理に含まれないが必要な作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11/6 糶摺り、精米
⑤費用の工夫	<p>Web サイト作成に係る委託料について交渉により見積り額よりも 2 万円程度の節減を行った。</p> <p>今回の事業で、ある程度販売できる品質の農作物ができることが分かったので、今後、生産した作物の販売や、農体験のイベントの受け入れなどにより、収入を得ていくことができるよう工夫ができるようになった。</p>
⑥地域社会への還元について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人が見沼田んぼの保全に関わることができた。 ・ 貧困支援や障害福祉団体の利用者が見沼田んぼの保全に関わることができた。 ・ 貧困支援や障害福祉団体の利用者を作業員として受け入れることができた。 ・ 企業の仲間に参加してもらうことで、この活動に社員の福利厚生としての魅力があることがわかった。 ・ この活動における仕事を整備することで、さまざまな人が活躍できる可能性があることがわかった。
⑦今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害福祉、貧困支援、見沼田んぼ保全関連団体等、異業種の団体の協力・交流の場をつくる。これまでも地域の団体との協力・交流に力を入れてきた。

<p>の事業と比べて優れていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見沼たんぼ内で、他団体と連携する。 ・支援をされる対象の人が活躍できる場を作る。
<p>⑧事業の実施体制</p>	<p>事業の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 総括責任者 サカール祥子 ② 連絡責任者 サカール祥子 ③ 現場責任者 佐藤嗣高 ④ 経理担当者 高橋葵 ⑤ 広報担当者 高橋葵
<p>⑨来年度以降どう事業を継続し発展させていくか</p>	<p>見沼たんぼの活用を進め、さまざまな人に活動の場として必要不可欠な場所になることで、見沼たんぼが農地として保全されていくという流れを作っていく。そのために、田畑を活用することが収入につながるような仕組みづくりを行う。また、多様な参加方法やサポートの仕方を設けることで、興味のある人それぞれに合った方法で関わってもらえるような受け入れ態勢を整える。</p> <p>(1) 会員、サポートメンバーの募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人会員、企業会員を集めて活動資金に。地域住民をはじめ、首都圏における見沼の認知を進める。 ・会費を払って作業に参加する会員のほか、除草や軽作業のボランティア、チラシやWEB更新などのプロボノ、生産した野菜の購入、学生の得意やサークル活動を活かしたボランティア等、様々な方法でのサポートメンバーを募集。そのための仕組み作り。 ・プロジェクトWEBサイトの更新。会費の明記、さまざまなサポート方法の記載。 <p>(2) 体験客の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植えや農作業などの体験プログラムを作り、国内外の観光客を受け入れる。 <p>(3) 見沼保全団体との協働継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ地域で活動する「見沼保全じゃぶじゃぶラボ」との連携を通して、技術面や地域のつながりを強化。 <p>(4) 貧困支援団体等との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな働き手の確保。そのための仕事の整備。
<p>⑩補足事項</p>	